

子ども・子育て新システム検討会議作業グループ こども指針(仮称)ワーキングチーム(第6回)	資料 2 - 3
平成23年6月13日	

# 参考資料

## (「施設における指導・援助の基準」関係)

平成23年6月13日

第6回 こども指針(仮称)ワーキングチーム資料

# 目 次

・幼稚園教育要領・保育所保育指針の根拠等に関連する関係法令	2
・幼稚園及び保育所の内容・運営等に関する記載事項(記載箇所)	4
・幼稚園の学期、休業日、教育週数、教育時間に関連する関係法令等	5
・保育所の保育時間等に関連する関係法令等	6
・幼稚園教育要領(発達特性)	8
・保育所保育指針(発達特性、発達過程)	10
・幼稚園教育要領・保育所保育指針(教育のねらい及び内容、養護のねらい及び内容)	
・教育のねらい及び内容、保育の内容(趣旨)	14
・【健康】(ねらい、内容)等	15
・【人間関係】(ねらい、内容)等	17
・【環境】(ねらい、内容)等	19
・【言葉】(ねらい、内容)等	21
・【表現】(ねらい、内容)等	23
・保育の実施上の配慮事項(全般、乳児)	25
・保育の実施上の配慮事項(3歳未満児、3歳以上児)	26
・【養護】(生命の保持)	27
・【養護】(情緒の安定)	28
・幼稚園教育要領・保育所保育指針(家庭・地域との連携、子育て支援)	29
・幼稚園教育要領・保育所保育指針(小学校との連携・接続)	32
・「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について(報告)」のポイント	33

## 幼稚園教育要領・保育所保育指針の根拠等に関連する関係法令(1 / 2)

### 【幼稚園関係】

#### 教育基本法(平成18年12月22日法律第120号)

(学校教育)

#### 第6条

2 前項の学校においては、教育の目標が達成されるよう、教育を受ける者の心身の発達に応じて、体系的な教育が組織的に行われなければならない。この場合において、教育を受ける者が、学校生活を営む上で必要な規律を重んずるとともに、自ら進んで学習に取り組む意欲を高めることを重視して行われなければならない。

(幼児期の教育)

第11条 幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることにかんがみ、国及び地方公共団体は、幼児の健やかな成長に資する良好な環境の整備その他適当な方法によって、その振興に努めなければならない。

#### 学校教育法(昭和22年3月31日法律第26号)

第22条 幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。

第25条 幼稚園の教育課程その他の保育内容に関する事項は、第22条及び第23条の規定に従い、文部科学大臣が定める。

#### 学校教育法施行規則(昭和22年5月23日文部省令第11号)

第38条 幼稚園の教育課程その他の保育内容については、この章に定めるもののほか、教育課程その他の保育内容の基準として文部科学大臣が別に公示する幼稚園教育要領によるものとする。

## 幼稚園教育要領・保育所保育指針の根拠等に関連する関係法令(2 / 2)

### 【保育所関係】

#### 児童福祉法(昭和22年12月12日法律第164号)

第39条 保育所は、日日保護者の委託を受けて、保育に欠けるその乳児又は幼児を保育することを目的とする施設とする。

保育所は、前項の規定にかかわらず、特に必要があるときは、日日保護者の委託を受けて、保育に欠けるその他の児童を保育することができる。

第45条 厚生労働大臣は、児童福祉施設の設備及び運営並びに里親の行う養育について、最低基準を定めなければならない。この場合において、その最低基準は、児童の身体的、精神的及び社会的な発達のために必要な生活水準を確保するものでなければならない。

#### 児童福祉施設最低基準(昭和23年12月29日厚生省令第63号)

(この省令の趣旨)

第1条 児童福祉法(昭和22年法律第164号。以下「法」という。)第45条の規定による児童福祉施設の設備及び運営についての最低基準(以下最低基準という。)は、この省令の定めるところによる。

(保育の内容)

第35条 保育所における保育は、養護及び教育を一体的に行うことをその特性とし、その内容については、厚生労働大臣が、これを定める。

## 幼稚園及び保育所の内容・運営等に関する記載事項(記載箇所)

	幼 稚 園	保 育 所
<b>法 律</b>	<b>学校教育法</b> ・健康診断等( § 12) [運営] ・幼稚園教育の目標( § 23) [目標] ・学校評価( § 24) [運営] <b>学校保健安全法</b> [運営]	※保育所の基準については児童福祉法等の法律では規定されていない。
<b>省 令</b>	<b>学校教育法施行規則</b> ・教育週数( § 37) [内容] ・学校評価( § 39,66 ~ 68) [運営] <b>学校保健安全法施行規則</b> [運営]	<b>児童福祉施設最低基準</b> ・保育時間( § 35) [内容]
<b>告 示</b>	<b>幼稚園教育要領</b> ・教育の具体的内容( 5 領域など) [内容] ・教育時間、教育方法等( 指導計画等) [内容] ・家庭や地域との連携、子育て支援等 [内容]  <u>※幼稚園教育要領(告示)では、幼稚園の内容に関する事項を規定。(幼稚園教育の目標や運営に関する事項は学校教育法等で規定。)</u>	<b>保育所保育指針</b> ・保育所保育の目標 [目標] ・保育の具体的内容(子どもの発達、養護、教育( 5 領域)など) [内容] ・保育方法等( 指導計画等) [内容] ・家庭や地域との連携、子育て支援等 [内容] ・その他( 保育所の運営に関する事項(評価、保健・安全、資質向上等)) [運営]  <u>※保育所保育指針(告示)では、保育所保育の目標、保育の内容に関する事項、保育の内容に関連する運営に関する事項を規定。</u>

## 幼稚園の学期、休業日、教育週数、教育時間に関連する関係法令等

### 学校教育法施行令(昭和28年10月31日政令第340号)

(学期及び休業日)

第29条 公立の学校(大学を除く。)の学期及び夏季、冬季、学年末、農繁期等における休業日は、市町村又は都道府県の設置する学校にあつては当該市町村又は都道府県の教育委員会が、公立大学法人の設置する高等専門学校にあつては当該公立大学法人の理事長が定める。

### 学校教育法施行規則(昭和22年5月23日文部省令第11号)

第37条 幼稚園の毎学年の教育週数は、特別の事情のある場合を除き、39週を下つてはならない。

第39条 第48条、第49条、第54条、第59条から第68条までの規定は、幼稚園に準用する。

第61条 公立小学校における休業日は、次のとおりとする。ただし、第3号に掲げる日を除き、特別の必要がある場合は、この限りでない。

- 一 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する日
- 二 日曜日及び土曜日
- 三 学校教育法施行令第29条の規定により教育委員会が定める日

第62条 私立小学校における学期及び休業日は、当該学校の学則で定める。

### 幼稚園教育要領(平成20年3月28日文部科学大臣告示)

#### 第1章 総則

#### 第2 教育課程の編成

2 幼稚園の毎学年の教育課程に係る教育週数は、特別の事情のある場合を除き、39週を下つてはならないこと。

3 幼稚園の1日の教育課程に係る教育時間は、4時間を標準とすること。ただし、幼児の心身の発達の程度や季節などに適切に配慮すること。

## 保育所の保育時間等に関連する関係法令等(1 / 2)

### 児童福祉施設最低基準(昭和23年12月29日厚生省令第63号)

(保育時間)

第34条 保育所における保育時間は、1日につき8時間を原則とし、その地方における乳児又は幼児の保護者の労働時間その他家庭の状況等を考慮して、保育所の長がこれを定める。

### 保育対策等促進事業の実施について(平成20年6月9日 雇児発第0609001号 厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知)

(別添6) 延長保育促進事業実施要綱

#### 1 事業の目的

就労形態の多様化等に伴う延長保育の需要に対応するため、児童福祉法第39条に規定する、市町村(特別区を含む。以下同じ。)以外の者の設置する保育所(以下「民間保育所」という。)が開所時間を超えた保育を取り組む場合に補助を行うことで安心して子育てができる環境を整備し、もって児童の福祉の向上を図ることを目的とする。

#### 4 対象事業

本事業の対象となる事業は、次に掲げる「延長保育推進事業(基本分)」及び「延長保育事業(加算分)」とする。

##### (1) 延長保育推進事業(基本分)

(2)の事業を実施する民間保育所における保育士配置の充実を図ることにより、11時間の開所時間の始期及び終期前後の保育需要への対応の推進を図る事業。

##### (2) 延長保育事業(加算分)

民間保育所の11時間の開所時間の前後の時間において、さらに30分以上の延長保育を実施する事業。

### 夜間保育所の設置認可等について(平成12年3月30日 児雇発第298号 厚生省等・児童家庭局長通知)

1 保育所の設置認可等の取扱方針については、児発第295号通知により示されたところであるが、夜間保育所の設置認可申請については、同通知に定める事項に加え、次の基準に照らして審査を行うこと。

##### (6) 保育の方法

開所時間は原則として概ね11時間とし、おおそ午後10時までとすること。

## 保育所の保育時間等に関連する関係法令等(2 / 2)

児童福祉法による保育所運営費国庫負担金について(昭和51年4月16日 厚生省発児第59号の2 厚生事務次官通知)

### 第3 保育単価及び支弁額

#### 4 支弁額の算式及び支弁義務

市町村は、法第51条第4号の規定により各月その保育所に対し、次の算式によって算定した額の合計額をその月の支弁額として支弁しなければならないこと。

(略)

#### 算式2 (月途中入所児童の場合)

乳児保育単価 × その月の月途中入所日からの開所日数 (25日を超える場合は25日) ÷ 25日

(以下、略)

### 第4 徴収金(保育料)基準額

その年度における徴収金(保育料)基準額は、その地方公共団体における各月初日の入所児童について、児童単位に、次の表の各月初日のその入所児童の属する世帯の階層及びその児童の年齢の区分によって定める基準額と月途中入退所に係る入所児童の次により算定した額の年間の合計額とすること。

#### 算式1 (月途中入所児童の場合)

次の表のその入所児童の属する世帯の階層及びその児童の年齢の区分によって定まる基準額 × その月途中入所日からの開所日数 (25日を超える場合は25日) ÷ 25日

(以下、略)



## <「幼稚園教育要領」(発達特性)(1 / 2)>

### 第1章 総則

#### 第1節 幼稚園教育の基本

幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園教育は、学校教育法第22条に規定する目的を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。

このため、教師は幼児との信頼関係を十分に築き、幼児と共によりよい教育環境を創造するように努めるものとする。これらを踏まえ、次に示す事項を重視して教育を行わなければならない。

- 1 幼児は安定した情緒の下で自己を十分に発揮することにより発達に必要な体験を得ていくものであることを考慮して、幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開されるようにすること。
- 2 幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、遊びを通しての指導を中心として第2章に示すねらいが総合的に達成されるようにすること。
- 3 幼児の発達は、心身の諸側面が相互に関連し合い、多様な経過をたどって成し遂げられていくものであること、また、幼児の生活経験がそれぞれ異なることなどを考慮して、幼児一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導を行うようにすること。

その際、教師は、幼児の主体的な活動が確保されるよう幼児一人一人の行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成しなければならない。この場合において、教師は、幼児と人やものとのかかわりが重要であることを踏まえ、物的・空間的環境を構成しなければならない。また、教師は、幼児一人一人の活動の場面に応じて、様々な役割を果たし、その活動を豊かにしなければならない。

#### 第2 教育課程の編成

幼稚園は、家庭との連携を図りながら、この章の第1に示す幼稚園教育の基本に基づいて展開される幼稚園生活を通して、生きる力の基礎を育成するよう学校教育法第23条に規定する幼稚園教育の目標の達成に努めなければならない。幼稚園は、このことにより、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとする。

これらを踏まえ、各幼稚園においては、教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの幼稚園教育要領の示すところに従い、創意工夫を生かし、幼児の心身の発達と幼稚園及び地域の実態に即応した適切な教育課程を編成するものとする。

- 1 幼稚園生活の全体を通して第2章に示すねらいが総合的に達成されるよう、教育課程に係る教育期間や幼児の生活経験や発達の過程などを考慮して具体的なねらいと内容を組織しなければならないこと。この場合においては、特に、自我が芽生え、他者の存在を意識し、自己を抑制しようとする気持ちが生まれる幼児期の発達の特性を踏まえ、入園から修了に至るまでの長期的な視野をもって充実した生活が展開できるように配慮しなければならないこと。

## <「幼稚園教育要領」(発達の特徴)(2 / 2)>

### 第2章 ねらい及び内容

#### 健康

##### 3 内容の取扱い

- (3) 自然の中で伸び伸びと体を動かして遊ぶことにより、体の諸機能の発達が促されることに留意し、幼児の興味や関心が戸外にも向くようにすること。

#### 人間関係

##### 3 内容の取扱い

- (1) 教師との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人とのかかわる基盤となることを考慮し、幼児が自ら周囲に働き掛けることにより多様な感情を体験し、試行錯誤しながら自分の力で行うことの充実感を味わうことができるよう、幼児の行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。
- (2) 幼児の主体的な活動は、他の幼児とのかかわりの中で深まり、豊かになるものであり、幼児はその中で互いに必要な存在であることを認識するようになることを踏まえ、一人一人を生かした集団を形成しながら人とのかかわる力を育てていくようにすること。特に、集団の生活の中で、幼児が自己を発揮し、教師や他の幼児に認められる体験をし、自信をもって行動できるようにすること。
- (5) 集団の生活を通して、幼児が人とかかわりを深め、規範意識の芽生えが培われることを考慮し、幼児が教師との信頼関係に支えられて自己を発揮する中で、互いに思いを主張し、折り合いを付ける体験をし、きまりの必要性などに気づき、自分の気持ちを調整する力が育つようにすること。

#### 環境

##### 3 内容の取扱い

- (2) 幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、幼児の心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、幼児が自然とかかわりを深めることができるよう工夫すること。

### 第3章 指導計画及び教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項

#### 第1 指導計画の作成上の留意事項

##### 1 一般的な留意事項

- (3) 幼児の生活は、入園当初の一人一人の遊びや教師との触れ合いを通して幼稚園生活に親しみ、安定していく時期から、やがて友達同士で目的をもって幼稚園生活を展開し、深めていく時期などに至るまでの過程を様々に経ながら広がられていくものであることを考慮し、活動がそれぞれの時期にふさわしく展開されるようにすること。その際、入園当初、特に、3歳児の入園については、家庭との連携を緊密にし、生活のリズムや安全面に十分配慮すること。また、認定こども園（就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律（平成18年法律第77号）第6条第2項に規定する認定こども園をいう。）である幼稚園については、幼稚園入園前の当該認定こども園における生活経験に配慮すること。

## <「保育所保育指針」(発達の特性)(1 / 2)>

### 第1章 総則

#### 2 保育所の役割

- (2) 保育所は、その目的を達成するために、保育に関する専門性を有する職員が、家庭との緊密な連携の下に、子どもの状況や発達過程を踏まえ、保育所における環境を通して、養護及び教育を一体的に行うことを特性としている。

#### 3 保育の原理

##### (2) 保育の方法

- ウ 子どもの発達について理解し、一人一人の発達過程に応じて保育すること。その際、子どもの個人差に十分配慮すること。

### 第2章 子どもの発達

子どもは、様々な環境との相互作用により発達していく。すなわち、子どもの発達は、子どもがそれまでの体験を基にして、環境に働きかけ、環境との相互作用を通して、豊かな心情、意欲及び態度を身につけ、新たな能力を獲得していく過程である。特に大切なのは、人との関わりであり、愛情豊かで思慮深い大人による保護や世話などを通して、大人と子どもの相互の関わりが十分に行われることが重要である。この関係を起点として、次第に他の子どもとの間でも相互に働きかけ、関わりを深め、人への信頼感と自己の主体性を形成していくのである。

これらのことを踏まえ、保育士等は、次に示す子どもの発達の特性や発達過程を理解し、発達及び生活の連続性に配慮して保育しなければならない。その際、保育士等は、子どもと生活や遊びを共にする中で、一人一人の子どもの心身の状態を把握しながら、その発達の援助を行うことが必要である。

#### 1 乳幼児期の発達の特性

- (1) 子どもは、大人によって生命を守られ、愛され、信頼されることにより、情緒が安定するとともに、人への信頼感が育つ。そして、身近な環境（人、自然、事物、出来事など）に興味や関心を持ち、自発的に働きかけるなど、次第に自我が芽生える。
- (2) 子どもは、子どもを取り巻く環境に主体的に関わることにより、心身の発達が促される。
- (3) 子どもは、大人との信頼関係を基にして、子ども同士の関係を持つようになる。この相互の関わりを通じて、身体的な発達及び知的な発達とともに、情緒的、社会的及び道徳的な発達が促される。
- (4) 乳幼児期は、生理的、身体的な諸条件や生育環境の違いにより、一人一人の心身の発達の個人差が大きい。
- (5) 子どもは、遊びを通して、仲間との関係を育み、その中で個の成長も促される。
- (6) 乳幼児期は、生涯にわたる生きる力の基礎が培われる時期であり、特に身体感覚を伴う多様な経験が積み重なることにより、豊かな感性とともに好奇心、探究心や思考力が養われる。また、それらがその後の生活や学びの基礎になる。

## <「保育所保育指針」(発達の特徴)(2 / 2)>

### 第4章 保育の計画及び評価

#### 1 保育の計画

##### (1) 保育課程

ウ 保育課程は、子どもの生活の連続性や発達の連続性に留意し、各保育所が創意工夫して保育できるよう、編成されなければならない。

##### (2) 指導計画

###### ア 指導計画の作成

指導計画の作成に当たっては、次の事項に留意しなければならない。

(ア) 保育課程に基づき、子どもの生活や発達を見通した長期的な指導計画と、それに関連しながら、より具体的な子どもの日々の生活に即した短期的な指導計画を作成して、保育が適切に展開されるようにすること。

(イ) 子ども一人一人の発達過程や状況を十分に踏まえること。

(ウ) 保育所の生活における子どもの発達過程を見通し、生活の連続性、季節の変化などを考慮し、子どもの実態に即した具体的なねらい及び内容を設定すること。

(エ) 具体的なねらいが達成されるよう、子どもの生活する姿や発想を大切にして適切な環境を構成し、子どもが主体的に活動できるようにすること。

##### (3) 指導計画の作成上、特に留意すべき事項

指導計画の作成に当たっては、第二章(子どもの発達)、前章(保育の内容)及びその他の関連する章に示された事項を踏まえ、特に次の事項に留意しなければならない。

###### ア 発達過程に応じた保育

(ア) 三歳未満児については、一人一人の子どもの生育歴、心身の発達、活動の実態等に即して、個別的な計画を作成すること。

(イ) 三歳以上児については、個の成長と、子ども相互の関係や協同的な活動が促されるよう配慮すること。

(ウ) 異年齢で構成される組やグループでの保育においては、一人一人の子どもの生活や経験、発達過程などを把握し、適切な援助や環境構成ができるよう配慮すること。

## <「保育所保育指針」(発達過程)(1 / 2)>

### 第2章 子どもの発達

#### 2 発達過程

子どもの発達過程は、おおむね次に示す8つの区分としてとらえられる。ただし、この区分は、同年齢の子どもの均一的な発達の基準ではなく、一人一人の子どもの発達過程としてとらえるべきものである。また、様々な条件により、子どもに発達課題や保育所の生活になじみにくいなどの条件により、子どもに発達上の課題や保育所の生活になじみにくいなどの状態が見られても、保育士等は、子ども自身の力を十分に認め、一人一人の発達過程や心身の状態に応じた適切な援助及び環境構成を行うことが重要である。

##### (1) おおむね6か月未満

誕生後、母体内から外界への急激な環境の変化に適応し、著しい発達が見られる。首がすわり、手足の動きが活発になり、その後、寝返り、腹ばいなど全身の動きが活発になる。視覚、聴覚などの感覚の発達はめざましく、泣く、笑うなどの表情の変化や体の動き、喃語などで自分の欲求を表現し、これに応答的に関わる特定の大人との間に情緒的な絆が形成される。

##### (2) おおむね6か月から1歳3か月未満

座る、はう、立つ、つたい歩きといった運動機能が発達すること、及び腕や手先を意図的に動かせるようになることにより、周囲の人や物に興味を示し、探索活動が活発になる。特定の大人との応答的な関わりにより、情緒的な絆が深まり、あやしてもらおうと喜ぶなどやり取りが盛んになる一方で、人見知りをするようになる。また、身近な大人との関係の中で、自分の意思や欲求を身振りなどで伝えようとし、大人から自分に向けられた気持ちや簡単な言葉が分かるようになる。食事は、離乳食から幼児食へ徐々に移行する。

##### (3) おおむね1歳3か月から2歳未満

歩き始め、手を使い、言葉を話すようになることにより、身近な人や身の回りの物に自発的に働きかけていく。歩く、押す、つまむ、めくるなど様々な運動機能の発達や新しい行動の獲得により、環境に働きかける意欲を一層高める。その中で、物をやり取りしたり、取り合ったりする姿が見られるとともに、玩具等を実物に見立てるなどの象徴機能が発達し、人や物との関わりが強まる。また、大人の言うことが分かるようになり、自分の意思を親しい大人に伝えたいという欲求が高まる。指差し、身振り、片言などを盛んに使うようになり、二語文を話し始める。

##### (4) おおむね2歳

歩く、走る、飛ぶなどの基本的な運動機能や、指先の機能が発達する。それに伴い、食事、衣類の脱着など身の回りのことを自分でしようとする。また、排泄の自立のための身体的機能も整ってくる。発声が明瞭になり、語彙も著しく増加し、自分の意思や欲求を言葉で表出できるようになる。行動範囲が広がり探索活動が盛んになる中、自我の育ちの表れとして、強く自己主張する姿が見られる。盛んに模倣し、物事の間共通性を見いだすことができるようになるとともに、象徴機能の発達により、大人と一緒に簡単なごっこ遊びを楽しむようになる。

## <「保育所保育指針」(発達過程)(2 / 2)>

### 第2章 子どもの発達

#### 2 発達過程

##### (5) おおむね3歳

基本的な運動機能が伸び、それに伴い、食事、排泄、衣類の着脱などもほぼ自立できるようになる。話し言葉の基礎ができて、盛んに質問するなど知的興味や関心が高まる。自我がよりはっきりしてくるとともに、友達との関わりが多くなるが、実際には、同じ場所で同じような遊びをそれぞれが楽しんでいる平行遊びであることが多い。大人の行動や日常生活において経験したことをごっこ遊びに取り入れたり、象徴機能や観察力を発揮して、遊びの内容に発展性が見られるようになる。予想や意図、期待を持って行動できるようになる。

##### (6) おおむね4歳

全身のバランスを取る能力が発達し、体の動きが巧みになる。自然など身近な環境に積極的に関わり、様々な物の特性を知り、それらとの関わり方や遊び方を体得していく。想像力が豊かになり、目的を持って行動し、つくったり、かいたり、試したりするようになるが、自分の行動やその結果を予測して不安になるなどの葛藤も経験する。仲間とのつながりが強くなる中で、けんかも増えてくる。その一方で、決まりの大切さに気付き、守ろうとするようになる。感情が豊かになり、身近な人の気持ちを察し、少しずつ自分の気持ちを抑えられたり、我慢ができるようになってくる。

##### (7) おおむね5歳

基本的な生活習慣が身に付き、運動機能はますます伸び、喜んで運動遊びをしたり、仲間とともに活発に遊ぶ。言葉により共通のイメージを持って遊んだり、目的に向かって集団で行動することが増える。さらに、遊びを発展させ、楽しむために、自分たちで決まりを作ったりする。また、自分なりに考えて判断したり、批判する力が生まれ、けんかを自分たちで解決しようとするなど、お互いに相手を許したり、異なる思いや考えを認めたりといった社会生活に必要な基本的な力を身に付けていく。他人の役に立つことを嬉しく感じたりして、仲間の中の一人としての自覚が生まれる。

##### (8) おおむね6歳

全身運動が滑らかで巧みになり、快活に跳び回るようになる。これまでの体験から、自信や、予想や見通しを立てる力が育ち、心身ともに力があふれ、意欲が旺盛になる。仲間の意思を大切にしようとし、役割の分担が生まれるような協同遊びやごっこ遊びを行い、満足するまで取り組もうとする。様々な知識や経験を生かし、創意工夫を重ね、遊びを発展させる。思考力や認識力も高まり、自然事象や社会事象、文字などへの興味や関心も深まっていく。身近な大人に甘え、気持ちを休めることもあるが、様々な経験を通して自立心が一層高まっていく。

## < 教育のねらい及び内容、保育の内容(趣旨) >

幼稚園教育要領	保育所保育指針
<p data-bbox="206 277 499 304">第2章 ねらい及び内容</p> <p data-bbox="232 341 1090 563">この章に示すねらいは、幼稚園修了までに育つことが期待される生きる力の基礎となる心情、意欲、態度などであり、内容は、ねらいを達成するために指導する事項である。これらを幼児の発達の側面から、心身の健康に関する領域「健康」、人とかかわりに関する領域「人間関係」、身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」、言葉の獲得に関する領域「言葉」及び感性と表現に関する領域「表現」としてまとめ、示したものである。</p> <p data-bbox="232 568 1090 722">各領域に示すねらいは、幼稚園における生活の全体を通じ、幼児が様々な体験を積み重ねる中で相互に関連をもちながら次第に達成に向かうものであること、内容は、幼児が環境にかかわって展開する具体的な活動を通して総合的に指導されるものであることに留意しなければならない。</p> <p data-bbox="232 727 1090 852">なお、特に必要な場合には、各領域に示すねらいの趣旨に基づいて適切な、具体的な内容を工夫し、それを加えても差し支えないが、その場合には、それが第1章の第1に示す幼稚園教育の基本を逸脱しないよう慎重に配慮する必要がある。</p>	<p data-bbox="1126 277 1368 304">第3章 保育の内容</p> <p data-bbox="1153 341 2011 595">保育の内容は、「ねらい」及び「内容」で構成される。「ねらい」は、第1章（総則）に示された保育の目標をより具体化したものであり、子どもが保育所において、安定した生活を送り、充実した活動ができるように、保育士等が行わなければならない事項及び子どもが身に付けることが望まれる心情、意欲、態度などの事項を示したものである。また、「内容」は、「ねらい」を達成するために、子どもの生活やその状況に応じて保育士等が適切に行う事項と、保育士等が援助して子どもが環境に関わって経験する事項を示したものである。</p> <p data-bbox="1153 600 2011 724">保育士等が、「ねらい」及び「内容」を具体的に把握するための視点として、「養護に関わるねらい及び内容」と「教育に関わるねらい及び内容」との両面から示しているが、実際の保育においては、養護と教育が一体となって展開されることに留意することが必要である。</p> <p data-bbox="1153 729 2011 951">ここにいう「養護」とは、子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助や関わりである。また、「教育」とは、子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助であり、「健康」、「人間関係」、「環境」、「言葉」及び「表現」の5領域から構成される。この5領域並びに「生命の保持」及び「情緒の安定」に関わる保育の内容は、子どもの生活や遊びを通して相互に関連を持ちながら、総合的に展開されるものである。</p>

## <【健康】(ねらい、内容)>

幼稚園教育要領	保育所保育指針
<p>第2章 ねらい及び内容</p> <p><b>健康</b>  「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。」</p> <p><b>1 ねらい</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。</li> <li>(2) 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。</li> <li>(3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。</li> </ol> <p><b>2 内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) <u>先生や友達と触れ合い、安定感を<u>もって</u>行動する。</u></li> <li>(2) いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。</li> <li>(3) 進んで戸外で遊ぶ。</li> <li>(4) 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。</li> <li>(5) <u>先生や友達と<u>食べることを楽しむ。</u></u></li> <li>(6) 健康な生活のリズムを身に付ける。</li> <li>(7) 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの<u>生活に</u>必要な活動を自分でする。</li> <li>(8) <u>幼稚園</u>における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しを<u>もって</u>行動する。</li> <li>(9) 自分の健康に関心を<u>もち</u>、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。</li> <li>(10) 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。</li> </ol>	<p>第3章 保育の内容</p> <p><b>1 保育のねらい及び内容</b></p> <p>(2) 教育に関わるねらい及び保育</p> <p>ア 健康  健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。</p> <p>(ア) ねらい</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。</li> <li>② 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。</li> <li>③ 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。</li> </ol> <p>(イ) 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① <u>保育士等や友達と触れ合い、安定感を<u>持って</u>生活する。</u></li> <li>② いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。</li> <li>③ 進んで戸外で遊ぶ。</li> <li>④ 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。</li> <li>⑤ 健康な生活のリズムを身に付け、<u>楽しんで食事をする。</u></li> <li>⑥ 身の回りを清潔にし、衣類の着脱、食事、排泄など生活に必要な活動を自分でする。</li> <li>⑦ <u>保育所</u>における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しを<u>持って</u>行動する。</li> <li>⑧ 自分の健康に関心を<u>もち</u>、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。</li> <li>⑨ 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。</li> </ol>



## <【健康】(内容の取扱い)、保育の実施上の配慮事項>

幼稚園教育要領	保育所保育指針
<p>第2章 わらい及び内容</p> <p><b>健康</b></p> <p><b>3 内容の取扱い</b></p> <p>上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。</p> <p>(1) 心と体の健康は、相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、幼児が教師や他の幼児との温かい触れ合いの中で自己の存在感や充実感を味わうことなどを基盤として、しなやかな心と体の発達を促すこと。特に、十分に体を動かす気持ちよさを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること。</p> <p>(2) 様々な遊びの中で、幼児が興味や関心、能力に応じて全身を使って活動することにより、体を動かす楽しさを味わい、安全についての構えを身に付け、自分の体を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。</p> <p>(3) 自然の中で伸び伸びと体を動かして遊ぶことにより、体の諸機能の発達が促されることに留意し、幼児の興味や関心が戸外にも向くようにすること。その際、幼児の動線に配慮した園庭や遊具の配置などを工夫すること。</p> <p>(4) 健康な心と体を育てるためには食育を通じた望ましい食習慣の形成が大切であることを踏まえ、幼児の食生活の実情に配慮し、和やかな雰囲気の中で教師や他の幼児と食べる喜びや楽しさを味わったり、様々な食べ物への興味や関心をもったりするなどし、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。</p>	<p>第3章 保育の内容</p> <p><b>2 保育の実施上の配慮事項</b></p> <p>(1) <b>保育に関わる全般的な配慮事項</b></p> <p>イ 子どもの健康は、生理的、身体的な育ちとともに、自主性や社会性、豊かな感性の育ちとがあいまってもたらされることに留意すること。</p> <p>(4) <b>3歳以上児の保育に関わる配慮事項</b></p> <p>ウ 様々な遊びの中で、全身を動かして意欲的に活動することにより、体の諸機能の発達が促されることに留意し、子どもの興味や関心が戸外にも向くようにすること。</p> <p>ア 生活に必要な基本的な習慣や態度を身に付けることの大切さを理解し、適切な行動を選択できるよう配慮すること。</p>

## <【人間関係】(ねらい、内容)>

幼稚園教育要領	保育所保育指針
<p>第2章 ねらい及び内容</p> <p><b>人間関係</b>  <span style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">{</span>         他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、  <u>人とかかわる力を養う。</u> </p> <p><b>1 ねらい</b></p> <p>(1) <u>幼稚園</u>生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。          (2) 身近な人と親しみ、<u>かかわり</u>を深め、愛情や信頼感を<u>もつ</u>。          (3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。</p> <p><b>2 内 容</b></p> <p>(1) <u>先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。</u></p> <p>(2) 自分で考え、自分で行動する。          (3) 自分でできることは自分でする。  <u>(4) いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。</u>          (5) 友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。          (6) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。          (7) 友達の<u>よさ</u>に気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。          (8) 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、<u>工夫したり、協力したり</u>などする。          (9) <u>よいこと</u>や悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。</p>	<p>第3章 保育の内容</p> <p><b>1 保育のねらい及び内容</b></p> <p>(2) 教育に関わるねらい及び保育</p> <p>イ 人間関係          他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、  <u>人と関わる力を養う。</u></p> <p>(ア) ねらい</p> <p>① <u>保育所</u>生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。          ② 身近な人と親しみ、<u>関わり</u>を深め、愛情や信頼感を<u>持つ</u>。          ③ 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。</p> <p>(イ) 内容</p> <p>① <u>安心できる保育士等との関係の下で、身近な大人や友達に関心をもち、模倣して遊んだり、親しみを持って自ら関わろうとする。</u>          ② <u>保育士等や友達との安定した関係の中で、共に過ごすことの喜びを味わう。</u>          ③ 自分で考え、自分で行動する。          ④ 自分でできることは自分でする。</p> <p>⑤ 友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。          ⑥ 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。          ⑦ 友達の<u>良さ</u>に気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。          ⑧ 友達と一緒に活動する中で、共通の目的を見だし、<u>協力して物事をやり遂げようとする気持ちを持つ</u>。          ⑨ <u>良いこと</u>や悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。</p>

## <【人間関係】(内容の取扱い)、保育の実施上の配慮事項>

幼稚園教育要領	保育所保育指針
<p>第2章 わらう及び内容</p> <p><b>人間関係</b></p> <p><b>3 内容の取扱い</b></p> <p>上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。</p> <p>(1) 教師との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人とかかわる基盤となることを考慮し、幼児が自ら周囲に働き掛けることにより多様な感情を体験し、試行錯誤しながら自分の力で行うことの充実感を味わうことができるよう、幼児の行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。</p> <p>(2) 幼児の主体的な活動は、他の幼児とのかかわりの中で深まり、豊かになるものであり、幼児は其中で互いに必要な存在であることを認識するようになることを踏まえ、一人一人を生かした集団を形成しながら人とかかわる力を育てていくようにすること。特に、集団の生活の中で、幼児が自己を発揮し、教師や他の幼児に認められる体験をし、自信をもって行動できるようにすること。</p> <p>(3) 幼児が互いにかかわりを深め、協同して遊ぶようになるため、自ら行動する力を育てるようにするとともに、他の幼児と試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること。</p> <p>(4) 道徳性の芽生えを培うに当たっては、基本的な生活習慣の形成を図るとともに、幼児が他の幼児とのかかわりの中で他人の存在に気付き、相手を尊重する気持ちをもって行動できるようにし、また、自然や身近な動植物に親しむことなどを通して豊かな心情が育つようにすること。特に、人に対する信頼感や思いやりの気持ちは、葛藤やつまづきをも体験し、それらを乗り越えることにより次第に芽生えてくることに配慮すること。</p> <p>(5) 集団の生活を通して、幼児が人とかかわりを深め、規範意識の芽生えが培われることを考慮し、幼児が教師との信頼関係に支えられて自己を発揮する中で、互いに思いを主張し、折り合いを付ける体験をし、きまりの必要性などに気付き、自分の気持ちを調整する力が育つようにすること。</p> <p>(6) 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人と触れ合い、自分の感情や意志を表現しながら共に楽しみ、共感し合う体験を通して、これらの人々などに親しみをもち、人とかかわることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わうことができるようにすること。また、生活を通して親や祖父母などの家族の愛情に気付き、家族を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。</p>	<p>第3章 保育の内容</p> <p><b>2 保育の実施上の配慮事項</b></p> <p>(1) <b>保育に関わる全般的な配慮事項</b></p> <p>ウ 子どもが自ら周囲に働きかけ、試行錯誤しつつ自分の力で行う活動を見守りながら、適切に援助すること。</p> <p>(4) <b>3歳以上児の保育に関わる配慮事項</b></p> <p>エ けんかなど葛藤を経験しながら次第に相手の気持ちを理解し、相互に必要な存在であることを実感できるよう配慮すること。</p> <p>オ 生活や遊びを通して、決まりがあることの大切さに気付き、自ら判断して行動できるよう配慮すること。</p>

## <【環境】(ねらい、内容)>

幼稚園教育要領	保育所保育指針
<p>第2章 ねらい及び内容</p> <p><b>環 境</b></p> <p>〔 周囲の様々な環境に好奇心や探究心を<u>もって</u>かかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。〕</p> <p><b>1 ねらい</b></p> <p>(1) 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。</p> <p>(2) 身近な環境に自分から<u>かかわり</u>、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。</p> <p>(3) 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。</p> <p><b>2 内 容</b></p> <p>(1) 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。</p> <p>(2) 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。</p> <p>(3) 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。</p> <p>(4) 自然などの身近な事象に関心をもち、<u>取り入れて遊ぶ。</u></p> <p>(5) 身近な動植物に親しみをもつて接し、<u>生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。</u></p> <p>(6) 身近な物を大切にする。</p> <p>(7) 身近な物や遊具に興味を<u>もって</u>かかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。</p> <p>(8) 日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。</p> <p>(9) 日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。</p> <p>(10) <u>生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。</u></p> <p>(11) <u>幼稚園内外の行事において国旗に親しむ。</u></p>	<p>第3章 保育の内容</p> <p><b>1 保育のねらい及び内容</b></p> <p>(2) 教育に関わるねらい及び保育</p> <p>ウ 環境</p> <p>周囲の様々な環境に好奇心や探究心を<u>持って</u>関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。</p> <p>(ア) ねらい</p> <p>① 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持つ。</p> <p>② 身近な環境に自分から<u>関わり</u>、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。</p> <p>③ 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。</p> <p>(イ) 内容</p> <p>① <u>安心できる人的及び物的環境の下で、聞く、見る、触れる、嗅ぐ、味わうなど感覚の働きを豊かにする。</u></p> <p>② <u>好きな玩具や遊具に興味を持って関わり、様々な遊びを楽しむ。</u></p> <p>③ 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。</p> <p>④ 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心を持つ。</p> <p>⑤ 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。</p> <p>⑥ 自然などの身近な事象に関心をもち、<u>遊びや生活に取り入れようとする。</u></p> <p>⑦ 身近な動植物に親しみを持ち、<u>いたわったり、大切にしたり、作物を育てたり、味わうなどして、生命の尊さに気付く。</u></p> <p>⑧ 身近な物を大切にする。</p> <p>⑨ 身近な物や遊具に興味を<u>持って</u>関わり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。</p> <p>⑩ 日常生活の中で数量や図形などに関心を持つ。</p> <p>⑪ 日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心を持つ。</p> <p>⑫ <u>近隣の生活に興味や関心を持ち、保育所内外の行事などに喜んで参加する。</u></p>

## <【環境】(内容の取扱い)、保育の実施上の配慮事項>

幼稚園教育要領	保育所保育指針
<p>第2章 ねらい及び内容</p> <p><b>環 境</b></p> <p><b>3 内容の取扱い</b></p> <p>上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。</p> <p>(1) 幼児が、遊びの中で周囲の環境とかかわり、次第に周囲の世界に好奇心を抱き、その意味や操作の仕方に関心をもち、物事の法則性に気付き、自分なりに考えることができるようになる過程を大切にすること。特に、他の幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、自ら考えようとする気持ちが育つようにすること。</p> <p>(2) 幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、幼児の心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、幼児が自然とのかかわりを深めることができるよう工夫すること。</p> <p>(3) 身近な事象や動植物に対する感動を伝え合い、共感し合うことなどを通して自分からかかわろうとする意欲を育てるとともに、様々なかかわり方を通してそれらに対する親しみや畏敬の念、生命を大切にする気持ち、公共心、探究心などが養われるようにすること。</p> <p>(4) 数量や文字などに関しては、日常生活の中で幼児自身の必要感に基づく体験を大切にし、数量や文字などに関する興味や関心、感覚が養われるようにすること。</p>	<p>第3章 保育の内容</p> <p><b>2 保育の実施上の配慮事項</b></p> <p>(4) <b>3歳以上児の保育に関わる配慮事項</b></p> <p>カ 自然との触れ合いにより、子どもの豊かな感性や認識力、思考力及び表現力が培われることを踏まえ、自然との関わりを深めることができるよう工夫すること。</p>

## <【言葉】(ねらい、内容)>

幼稚園教育要領	保育所保育指針
<p>第2章 ねらい及び内容</p> <p><b>言葉</b>          ( 経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。 )</p> <p><b>1 ねらい</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。</li> <li>(2) 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。</li> <li>(3) 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、先生や友達と心を通わせる。</li> </ol> <p><b>2 内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) <u>先生や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもち</u>て聞いたり、話したりする。</li> <li>(2) <u>したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたこと</u>を自分なりに言葉で表現する。</li> <li>(3) <u>したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたり</u>する。</li> <li>(4) 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。</li> <li>(5) 生活の中で必要な言葉が分かり、使う。</li> <li>(6) <u>親しみをもち</u>て日常のあいさつをする。</li> <li>(7) 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。</li> <li>(8) いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。</li> <li>(9) 絵本や物語などに親しみ、<u>興味をもち</u>て聞き、想像をする楽しさを味わう。</li> <li>(10) 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。</li> </ol>	<p>第3章 保育の内容</p> <p><b>1 保育のねらい及び内容</b></p> <p>(2) 教育に関わるねらい及び保育</p> <p><b>エ 言葉</b>          経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。</p> <p>(ア) ねらい</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。</li> <li>② 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。</li> <li>③ 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、先生や友達と心を通わせる。</li> </ol> <p>(イ) 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① <u>保育士等の応答的な関わりや話しかけにより、自ら言葉を使おうとする。</u></li> <li>② <u>保育士等と一緒にごっこ遊びなどをする中で、言葉のやり取りを楽しむ。</u></li> <li>③ <u>保育士等や友達の言葉や話に興味や関心を持ち、親しみをもち</u>て聞いたり、話したりする。</li> <li>④ <u>したこと、見たこと、聞いたこと、味わったこと、感じたこと、考えたこと</u>を自分なりに言葉で表現する。</li> <li>⑤ <u>したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたり</u>する。</li> <li>⑥ 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。</li> <li>⑦ 生活の中で必要な言葉が分かり、使う。</li> <li>⑧ <u>親しみをもち</u>て日常のあいさつをする。</li> <li>⑨ 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。</li> <li>⑩ いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。</li> <li>⑪ 絵本や物語などに親しみ、<u>興味をもち</u>て聞き、想像をする楽しさを味わう。</li> <li>⑫ 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。</li> </ol>

## <【言葉】(内容の取扱い)、保育の実施上の配慮事項>

幼稚園教育要領	保育所保育指針
<p>第2章 ねらい及び内容</p> <p><b>言葉</b></p> <p><b>3 内容の取扱い</b></p> <p>上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。</p> <p>(1) 言葉は、身近な人に親しみをもって接し、自分の感情や意志などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通して次第に獲得されていくものであることを考慮して、幼児が教師や他の幼児とかかわることにより心を動かすような体験をし、言葉を交わす喜びを味わえるようにすること。</p> <p>(2) 幼児が自分の思いを言葉で伝えるとき、教師や他の幼児などの話を興味をもって注意して聞くことを通して次第に話を理解するようになっていき、言葉による伝え合いができるようにすること。</p> <p>(3) 絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結び付けたり、想像を巡らせたりするなど、楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージをもち、言葉に対する感覚が養われるようにすること。</p> <p>(4) 幼児が日常生活の中で、文字などを使いながら思ったことや考えたことを伝える喜びや楽しさを味わい、文字に対する興味や関心をもつようにすること。</p>	<p>第3章 保育の内容</p> <p><b>2 保育の実施上の配慮事項</b></p> <p>(4) <b>3歳以上児の保育に関わる配慮事項</b></p> <p>キ 自分の気持ちや経験を自分なりの言葉で表現することの大切さに留意し、子どもの話しかけに応じるよう心がけること。また、子どもが仲間と伝え合ったり、話し合うことの楽しさが味わえるようにすること。</p>

## <【表現】(ねらい、内容)>

幼稚園教育要領	保育所保育指針
<p>第2章 ねらい及び内容</p> <p><b>表 現</b>          ( 感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。 )</p> <p><b>1 ねらい</b>          (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。          (2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。          (3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。</p> <p><b>2 内 容</b></p> <p>(1) 生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりする<u>など</u>して楽しむ。          (2) 生活の中で<u>美しいものや心を動かす出来事</u>に触れ、イメージを豊かにする。          (3) 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。          (4) 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったり<u>など</u>する。          (5) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。          (6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったり<u>など</u>する楽しさを味わう。          (7) かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったり<u>など</u>する。          (8) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりする<u>などの</u>楽しさを味わう。</p>	<p>第3章 保育の内容</p> <p><b>1 保育のねらい及び内容</b>          (2) 教育に関わるねらい及び保育</p> <p><b>オ 表現</b>          感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。</p> <p>(ア) ねらい          ① いろいろな物の美しさなどに対する豊かな感性を持つ。          ② 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。          ③ 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。</p> <p>(イ) 内容          ① <u>水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ。</u>          ② <u>保育士等と一緒に歌ったり、手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ。</u>          ③ 生活の中で様々な音、色、形、手触り、動き、<u>味、香り</u>などに気付いたり、感じたりして楽しむ。          ④ 生活の中で様々な出来事に触れ、イメージを豊かにする。          ⑤ 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。          ⑥ 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりする。          ⑦ いろいろな素材や用具に親しみ、工夫して遊ぶ。          ⑧ 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう。          ⑨ かいたり、つくったりすることを楽しみ、<u>それを遊びに使ったり、飾ったり</u>する。          ⑩ 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりする楽しさを味わう。</p>



## <【表現】(内容の取扱い)、保育の実施上の配慮事項>

幼稚園教育要領	保育所保育指針
<p>第2章 わらい及び内容 表 現</p> <p><b>3 内容の取扱い</b> 上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。</p> <p>(1) 豊かな感性は、自然などの身近な環境と十分にかかわる中で美しいもの、優れたもの、心を動かす出来事などに出会い、そこから得た感動を他の幼児や教師と共有し、様々に表現することなどを通して養われるようにすること。</p> <p>(2) 幼児の自己表現は素朴な形で行われることが多いので、教師はそのような表現を受容し、幼児自身の表現しようとする意欲を受け止めて、幼児が生活の中で幼児らしい様々な表現を楽しむことができるようにすること。</p> <p>(3) 生活経験や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、遊具や用具などを整えたり、他の幼児の表現に触れられるよう配慮したりし、表現する過程を大切に自己表現を楽しめるように工夫すること。</p>	<p>第3章 保育の内容</p> <p><b>2 保育の実施上の配慮事項</b></p> <p>(4) <b>3歳以上児の保育に関わる配慮事項</b> ク 感じたことや思ったこと、想像したことなどを、様々な方法で創意工夫を凝らして自由に表現できるよう、保育に必要な素材や用具を始め、様々な環境の設定に留意すること。</p>

## < 保育の実施上の配慮事項(全般、乳児) >

幼稚園教育要領	保育所保育指針
	<p>第3章 保育の内容</p> <p><b>2 保育の実施上の配慮事項</b></p> <p>保育士等は、一人一人の子どもの発達過程やその連続性を踏まえ、ねらいや内容を柔軟に取り扱うとともに、特に、次の事項に配慮して保育しなければならない。</p> <p><b>(1) 保育に関わる全般的な配慮事項</b></p> <p>ア 子どもの心身の発達及び活動の実態などの個人差を踏まえるとともに、一人一人の子どもの気持ちを受け止め、援助すること。</p> <p>イ 子ども健康は、生理的、身体的な育ちとともに、自主性や社会性、豊かな感性の育ちとあいまってもたらされることに留意すること。</p> <p>ウ 子どもが自ら周囲に働きかけ、試行錯誤しつつ自分の力で行う活動を見守りながら、適切に援助すること。</p> <p>エ 子ども入所時の保育に当たっては、できるだけ個別的に対応し、子どもが安定感を得て、次第に保育所の生活になじんでいくようにするとともに、既に入所している子どもに不安や動揺を与えないよう配慮すること。</p> <p>オ 子ども国籍や文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮すること。</p> <p>カ 子ども性差や個人差にも留意しつつ、性別などによる固定的な意識を植え付けることがないよう配慮すること。</p> <p><b>(2) 乳児保育に関わる配慮事項</b></p> <p>ア 乳児は疾病への抵抗力が弱く、心身の機能の未熟さに伴う疾病の発生が多いことから、一人一人の発育及び発達状態や健康状態についての適切な判断に基づく保健的な対応を行うこと。</p> <p>イ 一人一人の子どもの生育歴の違いに留意しつつ、欲求を適切に満たし、特定の保育士が応答的に関わるように努めること。</p> <p>ウ 乳児保育に関わる職員間の連携や嘱託医との連携を図り、第5章（健康及び安全）に示された事項を踏まえ、適切に対応すること。栄養士及び看護師等が配置されている場合は、その専門性を生かした対応を図ること。</p> <p>エ 保護者との信頼関係を築きながら保育を進めるとともに、保護者からの相談に応じ、保護者への支援に努めていくこと。</p> <p>オ 担当の保育士が替わる場合には、子どものそれまでの経験や発達過程に留意し、職員間で協力して対応すること。</p>

## < 保育の実施上の配慮事項(3歳未満児、3歳以上児) >

幼稚園教育要領	保育所保育指針
	<p>第3章 保育の内容</p> <p>2 保育の実施上の配慮事項</p> <p>(3) 3歳未満児の保育に関わる配慮事項</p> <p>ア 特に感染症にかかりやすい時期であるので、体の状態、機嫌、食欲などの日常の状態の観察を十分に行うとともに、適切な判断に基づく保健的な対応を心がけること。</p> <p>イ 食事、排泄、睡眠、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなど、生活に必要な基本的な習慣については、一人一人の状態に応じ、落ち着いた雰囲気の中で行うようにし、子どもが自分ですようとする気持ちを尊重すること。</p> <p>ウ 探索活動が十分できるように、事故防止に努めるながら活動しやすい環境を整え、全身を使う遊びなど様々な遊びを取り入れること。</p> <p>エ 子どもの自我の育ちを見守り、その気持ちを受け止めるとともに、保育士等が仲立ちとなって、友達の気持ちや友達との関わり方を丁寧に伝えていくこと。</p> <p>オ 情緒の安定を図りながら、子どもの自発的な活動を促していくこと。</p> <p>カ 担当の保育士が替わる場合には、子どものそれまでの経験や発達課題に留意し、職員間で協力して対応すること。</p> <p>(4) 3歳以上児の保育に関わる配慮事項</p> <p>ア 生活に必要な基本的な習慣や態度を身に付けることの大切さを理解し、適切な行動を選択できるようにすること。</p> <p>イ 子どもの情緒が安定し、自己を十分に発揮して活動することを通して、やり遂げる喜びや自信を持つことができるように配慮すること。</p> <p>ウ 様々な遊びの中で全身を動かして意欲的に活動することにより、体の諸機能の発達が促されることに留意し、子どもの興味や関心が戸外に向くようにすること。</p> <p>エ けんかなど葛藤を経験しながら次第に相手の気持ちを理解し、相互に必要な存在であることを実感できるよう配慮すること。</p> <p>オ 生活や遊びを通して、決まりがあることの大切さに気付き、自ら判断して行動できるよう配慮すること。</p> <p>カ 自然との触れ合いにより、子どもの豊かな感性や認識力、思考力及び表現力が培われることを踏まえ、自然との関わりを深めることができるよう工夫すること。</p> <p>キ 自分の気持ちや経験を自分なりの言葉で表現することの大切さに留意し、子どもの話しかけに応じるよう心がけること。また、子どもが仲間と伝え合ったり、話し合うことの楽しさが味わえるようにすること。</p> <p>ク 感じたことや思ったこと、想像したことなどを、様々な方法で創意工夫を凝らして自由に表現できるよう、保育に必要な素材や用具を始め、様々な環境の設定に留意すること。</p> <p>ケ 保育所の保育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに留意し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度の基礎を培うようにすること。</p>

## <【養護】(生命の保持)>

幼稚園教育要領	保育所保育指針
	<p>第3章 保育の内容</p> <p>1 保育のねらい及び内容</p> <p>(1) 養護に関わるねらい及び内容</p> <p>ア 生命の保持</p> <p>(ア) ねらい</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする。</li> <li>② 一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする。</li> <li>③ 一人一人の子どもの生理的欲求が、十分に満たされるようにする。</li> <li>④ 一人一人の子どもの健康増進が、積極的に図られるようにする。</li> </ol> <p>(イ) 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 一人一人の子どもの平常の健康状態や発育及び発達の状態を的確に把握し、異常を感じる場合は、速やかに適切に対応する。</li> <li>② 家庭との連絡を密にし、嘱託医等との連携を図りながら、子どもの疾病や事故防止に関する認識を深め、保健的で安全な保育環境の維持及び向上に努める。</li> <li>③ 清潔で安全な環境を整え、適切な援助や応答的な関わりを通して、子どもの生理的欲求を満たしていく。また、家庭と協力しながら、子どもの発達過程等に応じた適切な生活リズムが作られていくようにする。</li> <li>④ 子どもの発達過程等に応じて、適度な運動と休息をすることができるようになる。また、食事、排泄、睡眠、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなどについて、子どもが意欲的に生活できるよう適切に援助する。</li> </ol>

## <【養護】(情緒の安定)>

幼稚園教育要領	保育所保育指針
	<p>第3章 保育の内容</p> <p>1 保育のねらい及び内容</p> <p>(1) 養護に関わるねらい及び内容</p> <p>イ 情緒の安定</p> <p>(ア) ねらい</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 一人一人の子どもが、安定感を持って過ごせるようにする。</li> <li>② 一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。</li> <li>③ 一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする。</li> <li>④ 一人一人の子どもの心身の疲れが癒されるようにする。</li> </ol> <p>(イ) 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 一人一人の子どもの置かれている状態や発達過程などを的確に把握し、子どもの欲求を適切に満たしながら、応答的な触れ合いや言葉かけを行う。</li> <li>② 一人一人の子どもの気持ちを受容し、共感しながら、子どもとの継続的な信頼関係を築いていく。</li> <li>③ 保育士等との信頼関係を基盤に、一人一人の子どもが主体的に活動し、自発性や探索意欲などを高めるとともに、自分への自信を持つことができるよう成長の過程を見守り、適切に働きかける。</li> <li>④ 一人一人の子どもの生活リズム、発達過程、保育時間などに応じて、活動内容のバランスや調和を図りながら、適切な食事や休息が取れるようにする。</li> </ol>

## < 家庭・地域との連携 >

幼稚園教育要領	保育所保育指針
<p>第1章 総 則</p> <p><b>第2 教育課程の編成</b></p> <p>幼稚園は、家庭との連携を図りながら、この章の第1に示す幼稚園教育の基本に基づいて展開される幼稚園生活を通して、生きる力の基礎を育成するよう学校教育法第23条に規定する幼稚園教育の目標の達成に努めなければならない。</p> <p>第3章 指導計画及び教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項</p> <p><b>第1 指導計画の作成に当たっての留意事項</b></p> <p><b>1 一般的な留意事項</b></p> <p>(8) 幼児の生活は、家庭を基盤として地域社会を通じて次第に広がりをもつものであることに留意し、家庭との連携を十分に図るなど、幼稚園における生活が家庭や地域社会と連続性を保ちつつ展開されるようにすること。その際、地域の自然、人材、行事や公共施設などの地域の資源を積極的に活用し、幼児が豊かな生活体験を得られるように工夫すること。また、家庭との連携に当たっては、保護者との情報交換の機会を設けたり、保護者と幼児との活動の機会を設けたりなどすることを通じて、保護者の幼児期の教育に関する理解が深まるよう配慮すること。</p>	<p>第4章 保育の計画及び評価</p> <p><b>1 保育の計画</b></p> <p>(3) 指導計画の作成上、特に留意すべき事項</p> <p>オ 家庭及び地域社会との連携</p> <p>子どもの生活の連続性を踏まえ、家庭及び地域社会と連携して保育が展開されるよう配慮すること。その際、家庭や地域の機関及び団体の協力を得て、地域の自然、人材、行事、施設等の資源を積極的に活用し、豊かな生活体験を始め保育内容の充実が図られるよう配慮すること。</p>

## < 子育て支援 ( 1 / 2 ) >

幼稚園教育要領	保育所保育指針
<p>第1章 総 則</p> <p><b>第3 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動など</b></p> <p>幼稚園は、地域の実態や保護者の要請により教育課程に係る教育時間の終了後等に希望する者を対象に行う教育活動について、学校教育法第22条及び第23条並びにこの章の第1に示す幼稚園教育の基本を踏まえ実施すること。また、幼稚園の目的の達成に資するため、幼児の生活全体が豊かなものとなるよう家庭や地域における幼児期の教育の支援に努めること。</p> <p>第3章 指導計画及び教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項</p> <p><b>第1 指導計画の作成に当たっての留意事項</b></p> <p><b>1 一般的な留意事項</b></p> <p>(8) 幼児の生活は、家庭を基盤として地域社会を通じて次第に広がりをもつものであることに留意し、家庭との連携を十分に図るなど、幼稚園における生活が家庭や地域社会と連続性を保ちつつ展開されるようにすること。その際、地域の自然、人材、行事や公共施設などの地域の資源を積極的に活用し、幼児が豊かな生活体験を得られるように工夫すること。また、家庭との連携に当たっては、保護者との情報交換の機会を設けたり、保護者と幼児との活動の機会を設けたりなどすることを通じて、保護者の幼児期の教育に関する理解が深まるよう配慮すること。</p> <p><b>第2 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項</b></p> <p><b>2 幼稚園の運営に当たっては、子育ての支援のために保護者や地域の人々に機能や施設を開放して、園内体制の整備や関係機関との連携及び協力に配慮しつつ、幼児期の教育に関する相談に応じたり、情報を提供したり、幼児と保護者との登園を受け入れたり、保護者同士の交流の機会を提供したりするなど、地域における幼児期の教育のセンターとしての役割を果たすよう努めること。</b></p>	<p>第6章 保護者に対する支援</p> <p>保育所における保護者への支援は、保育士等の業務であり、その専門性を生かした子育て支援の役割は、特に重要なものである。保育所は、第1章（総則）に示されているように、その特性を生かし、保育所に入所する子どもの保護者に対する支援及び地域の子育て家庭への支援について、職員間の連携を図りながら、次の事項に留意して、積極的に取り組むことが求められる。</p> <p><b>1 保育所における保護者に対する支援の基本</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの最善の利益を考慮し、子どもの福祉を重視すること。</li> <li>(2) 保護者とともに、子どもの成長の喜びを共有すること。</li> <li>(3) 保育に関する知識や技術などの保育士の専門性や、子どもの集団が常に存在する環境など、保育所の特性を生かすこと。</li> <li>(4) 一人一人の保護者の状況を踏まえ、子どもと保護者の安定した関係に配慮して、保護者の養育力の向上に資するよう、適切に支援すること。</li> <li>(5) 子育て等に関する相談や助言に当たっては、保護者の気持ちを受け止め、相互の信頼関係を基本に、保護者一人一人の自己決定を尊重すること。</li> <li>(6) 子どもの利益に反しない限りにおいて、保護者や子どものプライバシーの保護、知り得た事項の秘密保持に留意すること。</li> <li>(7) 地域の子育て支援に関する資源を積極的に活用すると共に、子育て支援に関する地域の関係機関、団体等との連携及び協力を図ること。</li> </ol> <p><b>2 保育所に入所している子どもの保護者に関する支援</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育所に入所している子どもの保護者に対する支援は、子どもの保育との密接な関連の中で、子どもの送迎時の対応、相談や助言、連絡や通信、会合や行事など様々な機会を活用して行うこと。</li> <li>(2) 保護者に対し、保育所における子どもの様子や日々の保育の意図などを説明し、保護者との相互理解を図るよう努めること。</li> <li>(3) 保育所において、保護者の仕事と子育ての両立等を支援するため、通常の保育に加えて、保育時間の延長、休日、夜間の保育、病児・病後児に対する保育など多様な保育を実施する場合には、保護者の状況に配慮するとともに、子どもの福祉が尊重されるよう努めること。</li> </ol>

## < 子育て支援 ( 2 / 2 ) >

幼稚園教育要領	保育所保育指針
	<p>(4) 子どもに障害や発達上の課題が見られる場合には、市町村や関係機関と連携及び協力を図りつつ、保護者に対する個別の支援を行うよう努めること。</p> <p>(5) 保護者に育児不安等が見られる場合には、保護者の希望に応じて個別の支援を行うよう努めること。</p> <p>(6) 保護者に不適切な養育等が疑われる場合には、市町村や関係機関と連携し、要保護児童対策地域協議会で検討するなど適切な対応を図ること。また、虐待が疑われる場合には、速やかに市町村又は児童相談所に通告し、適切な対応を図ること。</p> <p><b>3 地域における子育て支援</b></p> <p>(1) 保育所は、児童福祉法第48条の3の規定に基づき、その行う保育に支障がない限りにおいて、地域の実情や当該保育所の体制等を踏まえ、次に掲げるような地域の保護者等に対する子育て支援を積極的に行うよう努めること。</p> <p>ア 地域の子育ての拠点としての機能</p> <p>(ア) 子育て家庭への保育所機能の解放（施設及び設備の開放、体験保育等）</p> <p>(イ) 子育て等に関する相談や援助の実施</p> <p>(ウ) 子育て家庭の交流の場の提供及び交流の促進</p> <p>(エ) 地域の子育て支援に関する情報の提供</p> <p>イ 一時保育</p> <p>(2) 市町村の支援を得て、地域の関係機関、団体等との積極的な連携及び協力を図るとともに、子育て支援に関わる地域の人材の積極的な活用を図るよう努めること。</p> <p>(3) 地域の要保護児童への対応など、地域の子どもをめぐる諸課題に対し、要保護児童対策地域協議会など関係機関等と連携、協力して取り組むよう努めること。</p>



## < 小学校との連携・接続 >

幼稚園教育要領	保育所保育指針
<p>第3章 指導計画及び教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項</p> <p><b>第1 指導計画の作成に当たっての留意事項</b></p> <p><b>1 一般的な留意事項</b></p> <p>(9) 幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにすること。</p> <p><b>2 特に留意する事項</b></p> <p>(5) 幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続のため、幼児と児童の交流の機会を設けたり、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会を設けたりするなど、連携を図るようにすること。</p>	<p>第3章 保育の内容</p> <p><b>2 保育の実施上の配慮事項</b></p> <p>(4) 3歳以上児の保育に関わる配慮事項</p> <p>ケ 保育所の保育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに留意し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにすること。</p> <p>第4章 保育の計画及び評価</p> <p>(3) 指導計画の作成上、特に留意すべき事項</p> <p>エ 小学校との連携</p> <p>(7) 子どもの生活や発達の連続性を踏まえ、保育の内容の工夫を図るとともに、就学に向けて、保育所の子どもと小学校の児童との交流、職員同士の交流、情報共有や相互理解など小学校との積極的な連携を図るよう配慮すること。</p> <p>(イ) 子どもに関する情報共有に関して、保育所に入所している子どもの就学の際し、市町村の支援の下に、子どもの育ちを支えるための資料が保育所から小学校へ送付されるようにすること。</p>

# 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について(報告)のポイント

## < 幼小接続の課題 > (文部科学省調査より)

ほとんどの地方公共団体で幼小接続の重要性を認識(都道府県100%、市町村99%)。

その一方、幼小接続の取組は十分実施されているとはいえない状況(都道府県77%、市町村80%が未実施)。

その理由・「接続関係を具体的にすることが難しい」(52%)、「幼小の教育の違いについて十分理解・意識していない」(34%)、「接続した教育課程の編成に積極的ではない」(23%)

## (報告のポイント)

### 幼児期の教育と小学校教育の関係を「連続性・一貫性」で捉える考え方を示す

教育基本法や学校教育法において、幼小の教育の目的・目標(知・徳・体)は連続性・一貫性をもって構成。

幼小接続を体系的に理解するため、幼小接続の構造を「3段階構造」(教育の目的・目標⇒教育課程⇒教育活動)で捉える。

幼小の教育の目標を「学びの基礎力の育成」という一つのつながりとして捉える。

幼児期の教育と小学校教育では、互いの教育を理解し、見通すことが必要。(その際、幼児期の教育と小学校教育は、それぞれ発達の違いを踏まえて教育を充実させることが重要であり、一方が他方に合わせるものではないことに留意。)

### 幼児期と児童期の教育活動をつなぎで捉える工夫を示す

幼小を通した学びの基礎力の育成を図るため、

・幼児期の終わりから児童期(低学年)にかけては「三つの自立」(学びの自立、生活上の自立、精神的な自立)を育成。

・上記に加え、児童期においては、「学力の三つの要素」(「基礎的な知識・技能」、「課題解決のために必要な思考力、判断力、表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」)を育成。

学びの芽生えの時期(幼児期)、自覚的な学びの時期(児童期)という発達の段階の違いからくる、遊びの中での学びと各教科等の授業を通した学習という違いがあるものの、「人とのかかわり」や「ものとのかかわり」という直接的・具体的な対象とのかかわりで幼児期と児童期の教育活動のつながりを見通して円滑な移行を図ることが必要。

#### 「人とのかかわり」における留意点

##### < 幼児期の終わり >

幼児の興味・関心や生活、協同性の育ち等の状況を踏まえて教職員が方向付けた課題を自分のこととして受け止め、相談したり互いの考えに折り合いをつけたりしながら、クラスやグループみんなで達成感をもってやり遂げる活動を計画的に進めることが必要。

#### 「ものとのかかわり」における留意点

##### < 幼児期の終わり >

幼児の興味・関心や生活等の状況を踏まえて教職員が方向付けた課題について、発達の個人差に十分配慮しつつ、これまでの生活や体験の中で感得した法則性、言葉や文字、数量的な関係などを組み合わせて課題を解決したり、場面に応じて適切に使ったりすることについて、クラスやグループみんなで経験できる活動を計画的に進めることが必要。

小学校入学時に幼児期の教育との接続を意識したスタートカリキュラムの編成の留意点を示す。

(幼稚園・保育所・認定こども園との連携協力(子どもの実態や指導の在り方等について理解を深める等)、授業時間や学習空間などの環境構成等の工夫(15分程度のモジュールによる時間割の構成等)など)

幼児期と児童期の教育双方が接続を意識する期間を「接続期」というつながりとして捉える考え方の普及を図る。

(幼児期の年長から児童期(低学年)の期間における子どもの発達や学びの連続性を踏まえて接続期を捉えることが必要。なお、接続期の実際の始期・終期は各学校・施設について適切な期間を設定。)

### 幼小接続の取組を進めるための方策(連携・接続の体制づくり等)を示す

幼小接続の取組を進めるための方策として、幼小接続のための連携・接続の体制づくり、教職員の資質向上(研修体制の確立)、家庭や地域社会との連携・協力についてのポイントを示す。